

## 平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会議事録

1. 会議の名称 平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会
2. 開催日時 平成20年3月24日(月)午後2時から同3時35分まで
3. 場 所 市民会館 3階 大会議
4. 出席者等 【出席委員】  
潤間丈助委員、安藤和夫委員、長谷川静雄委員、大野裕久委員、  
伊藤均委員、志村淳子委員、林輝美委員、荒井猛委員、上阪一三委員、  
佐藤通安委員、松本英一委員、林壽美子委員、小出佐和子委員、  
青木主税委員、岩崎正義委員、細村省三委員、川上昌子委員、  
近江眞理子委員、櫻井明美委員、  
【欠席委員】小出貢二委員、石丸和人委員、水上佳明委員、岩井英治委員  
  
【事務局】  
保健福祉部： 星野部長、鹿島次長  
保健福祉政策課： 田中課長、小松副主幹、長谷川主査  
子どもセンター： 木村センター長(兼)子ども福祉課長  
子ども福祉課： 切替課長補佐、五十嵐主査
5. 議 題 (1) 市原市次世代育成支援行動計画の進捗状況について  
(2) その他
6. 議事の概要 (1) 市原市次世代育成支援行動計画の進捗状況について  
了承された。  
(2) その他  
特になし。
7. 議事経過 別紙のとおり

# 平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会

## 議 事 経 過

### ○事務局（田中保健福祉政策課長）

本日は、お忙しい中、平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、皆様方には、平素から保健福祉をはじめとする市行政にご理解とご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。私は、本日の進行を務めさせていただきます保健福祉政策課の田中でございます。どうぞよろしくお願いたします。開会にあたりまして、前回の会議開催以降に、委員の変更がございましたので、皆様にご紹介いたします。お手元に配布してございます名簿の順にご紹介申し上げます。はじめに、名簿の番号8番、兼岡芳枝委員の後任で、市原市小学校長会・市原市立海上小学校長の林輝美委員でございます。次に、名簿の番号10番、中村克己委員の後任で、市原市PTA連絡協議会・常任委員の水上佳明委員でございます。本日は、欠席でございます。次に、名簿の番号11番、小池茂夫委員の後任で、市原市町会長連合会・会長の荒井猛委員でございます。次に、名簿の番号14番、今井一仁委員の後任で、今津保育所保護者会・会長の松本英一委員でございます。次に、名簿の番号18番、倉田憲生委員の後任で、千葉県市原健康福祉センター・副センター長の岩崎正義委員でございます。以上、5人の委員をご紹介いたしました。よろしくお願いたします。それでは、ただ今から、平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会を開催いたします。はじめに、潤間会長からご挨拶をいただきたいと存じます。会長、よろしくお願いたします。

### ○潤間会長

本日は、公私ご多忙の中、市原市保健福祉懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。今年の冬は、寒い日が多く、冬らしい冬でございました。今月に入り、かなり暖かい日も増え、春本番も間近でございます。前置きはこれくらいにして、先ほど事務局からご紹介がありましたが、各所属団体の役員改選等により、5人の委員が交代されました。退任された、兼岡芳枝委員、中村克己委員、小池茂夫委員、今井一仁委員、倉田憲生委員のこれまでのご尽力に感謝申し上げるとともに、新たに委員となられた、林輝美委員、水上佳明委員、荒井猛委員、松本英一委員、岩崎正義委員には、保健福祉懇話会へのご協力をお願いいたします。さて、本日の会議につきましては、市原市次世代育成支援行動計画の進捗状況について、ご意見を伺うこととなっております。急速に進行する少子化、高齢化が大きな社会問題となっている昨今、地域福祉計画、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、障害者基本計画、次世代育成支援行動計画など、様々な行政計画が計画され、日々実行されているわけではありますが、それらの進捗に関し、市民が率直な意見を出し合い、様々な立場から議論を深め、行政運営の参考としていただくこの懇話会は、大変意義のある会議であると考えております。今回は、事務局から、事前に資料の一部が送付されておりましたので、短い時間でありまますので、効率的に建設的な意見交換を行いたいと考えております。委員の皆様方のご協力を賜りながら、議事を運

営してまいりたいので、よろしく願いいたします。簡単ではございますが、ご挨拶といたします。

○事務局（田中保健福祉政策課長）

潤間会長、ありがとうございます。それでは、これから議事に入りますが、議事に入る前に副会長の選出をお願いしたいと思います。副会長につきましては、これまで、小池茂夫委員に努めていただいておりますが、退任されましたので、改めて副会長の選出をお願いするものです。保健福祉懇話会設置要綱第5条では、「懇話会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。」となっておりますので、委員の皆様の自薦、他薦により選出していただければと思います。副会長の役割としては、「会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。」と定められております。ご協議をお願いいたします。

○安藤和夫委員

安藤です。慣例で町会長連合会の会長が勤めていたようですので、荒井さんを推薦したいと思います。

○事務局（田中保健福祉政策課長）

ただ今、荒井猛委員が推薦されましたが、皆様、いかがでしょうか。

**【拍手多数、異議なしとの声】**

拍手多数ですので、荒井委員に副会長をお願いいたします。よろしく願いいたします。

**【荒井委員が副会長席に移動】**

それでは、荒井副会長に、一言ご挨拶を頂戴したいと思います。

○荒井猛副会長

慣例で町会長連合会の会長が副会長を勤めるということで、推薦を頂きました。保健福祉懇話会という大変重要な場で、力不足ではございますが、皆様方のお力添えを頂きまして勤めさせて頂きます。どうぞ宜しくお願いします。

○事務局（田中保健福祉政策課長）

荒井副会長、ありがとうございます。続きまして、議事に入る前に、配布資料の確認をお願いいたします。

会議次第、懇話会要綱・委員名簿、市次世代育成支援行動計画、市次世代育成支援行動計画の進捗状況の4点でございます。不足している場合は、お申し付け願います。それでは、これからの議事進行につきましては、懇話会設置要綱第6条の規定により、会長をお願いいたします。潤間会長、よろしく願いいたします。

○潤間会長

それでは、お手元の次第に基づき、議事を進めてまいります。議題の1「市原市次世代育成支援行動計画の進捗状況について」で、ございます。事務局の説明をお願いします。

○事務局（木村子ども福祉課長）

子どもセンター長の木村です。子ども福祉課長を兼ねておりますので、これからの説明を担当いたします。宜しくお願いします。始めに、本日の懇話会への提案趣旨でございますが、本計画を実効性あるものとするためには、行政による取り組み

だけでなく、市民の皆様や関係団体の皆様など、多くの方々のそれぞれのお立場から計画をご覧いただき、いただいたご意見等を、改めて計画に反映させていくことが必要と考えておりますので、皆様方から、お気付きの点や今後へのアドバイス等を頂戴できれば幸いとと考えております。なお、本来であれば、全ての事業について個別にご意見をいただきたいところではありますが、なにぶん事業数も多く、時間的な制約もございますので、始めに私の方から主な事業を中心に概要をお話しさせていただきます、お気付きになられた点がございましたら、のちほどご提言いただければと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、お手元の、次世代育成支援行動計画等の進捗状況についてと題した資料に沿ってご説明をいたします。市は、次代を担う子どもたちの育成支援の充実と、子どもを取り巻く様々な課題の解決を目指して、平成17年3月に市原市次世代育成支援行動計画を策定いたしました。計画は、次世代育成推進法も基づくものでございます。計画の内容といたしましては、「ともに育てるまち」「ともに育つまち」「ともに健やかに暮らせるまち」という3つの基本目標に基づき、地域・行政・学校・企業等が協働して、子どもたちの健やかな成長と元気なふるさと市原の実現を目指しています。この計画の期間は、平成17年度から26年度までの10年間でございます。なお、平成21年度までを前期の計画期間、平成22年度から26年度までを後期の計画期間とし、必要に応じて計画の見直しを行ってまいります。本題である平成19年度進捗状況ですが、平成20年2月末現在で、総事業数は146事業でございます。19年度実施事業数は124でございます。内訳として、計画通り実施したものは122でございます。これについては別添の「実績等一覧表」後ほどご説明いたします。前倒しして実施したものが2事業でございます。ファミリー・サポートセンター事業、放課後児童健全育成事業です。その他の事業数が22ございまして、内訳としては、準備・見直し等を行ったものが5事業でございます。別紙をご覧いただきたいのですが、幼稚園の預かり保育、空き店舗活用、つどいの広場、南部保健福祉センター整備、コンピューター活用教育推進の5事業でございます。20年度以降に計画があるものが12事業です。既に事業を完了したものは5事業でございます。進捗状況の行政側の評価といたしましては、既に事業を完了したものを含め、129事業を実施いたしましたので、146事業中129事業ということで、約88%の事業を実施しており、概ね計画どおりの進捗状況にあるものと考えています。これらは、「ともに育てよう 元気ないちはらっこ」という共通の理念のもと、庁内11部33部署がこの計画に携わり、それぞれが目標の達成に向け、日々取り組んでいるところでございます。次に、平成19年度実績の主なものについて、御説明させていただきます。資料の5番、平成19年度実績（主なもの）と書いてあるものでございます。はじめに、「ともに育てるまちを目指して」でございますが、1201番、地域福祉計画の策定でございますが、地域福祉計画は平成18年3月に策定を終えましたが、その後の取り組みとして、小域福祉ネットワークの設置に向けた啓発活動として、広報紙や市ウェブサイトによる周知、地域での会議への出席し支援を行っております。この取り組み結果として、18年度までは7小学校区を包括するネットワークが設置されましたが、19年度は新たに1小学校区で規約が整備され

設置されたところでございます。次に1202番の子育て支援員活動でございますが、生後4・5か月児を全戸家庭訪問し、子育てガイドブックの配布、子育て相談等を実施してきたところでございます。この事業は平成18年6月から市の独自の事業としてスタートいたしました。国においては、平成19年度に「こんにちは赤ちゃん事業」として4か月児の全戸訪問をスタートさせました。そこで市といたしましては、平成19年10月から4か月児の全戸訪問に切り替えたところでございます。この結果、訪問件数が平成20年1月末現在で2,208件となっております。次に、1210番のコミュニティセンター及び町会集会施設の活用につきましては、本年2月3日に千種コミュニティセンターが開設されまして、この施設の中に「こどもルーム」を設置いたしました。ちなみに、2月3日から3月20日までに約1000人の親子が利用しています。また、(仮称)戸田光風台サブコミュニティセンターも本年度に工事着手いたしました。町会施設につきましても3町会で新築され、今後、子ども会や世代間交流の実施を計画していると聞いております。次に、1223番のファミリー・サポート・センター事業ですが、これは、育児の援助を受けたい方と援助を行いたい方が会員となりまして、地域で子育てを支援する制度でございます。運営は、社会福祉協議会に委託しております。平成20年1月末の会員数でございますが、利用したい会員が77人、協力をする会員が44人、利用と協力の両方をしたい会員が5人で、合わせて126人が登録をしております。当初この事業は20年度に開始予定でしたが、ニーズや効果を考えまして、前倒しをして18年度から実施してきたところでございます。なお、19年度1月末までの利用状況は366回でした。続きまして、1231番の放課後児童健全育成事業でございますが、行動計画策定前は12か所ございましたが、新規に5か所増で計17か所の目標でしたが、既に18年度で前倒ししまして、18年4月1日で18か所となっております。19年度は4月1日で、さらに4か所増やし、21校21クラブとなったところでございます。これ以外に19年度には増設を3校、移転改築を1校、新たな整備を白旗と潤津小ですが、準備行為を終えまして更に増設いたしまして、来る4月1日には、23校・25クラブ・1053人の予定で提供できることになりました。続きまして、1317番の障がい児にやさしい教育環境づくりについてですが、この事業の内容は、教職員を対象に研修会を実施し、各小中学校における特別支援教育コーディネーターを育成し、特別支援教育等を浸透させていこうとするものがあります。校内支援体制の取り組みと軽度発達障害児の指導のあり方について研修会を5回実施したところであります。続きまして、1319番の乳幼児医療費助成(助成範囲の拡大)につきましては、昨年8月から助成範囲を3歳から小学校就学前児童の通院分までに範囲を拡大いたしました。これによりまして、産まれてから小学校に入学するまで、入院・通院の全てで助成の対象となりました。次に基本目標の2つ目の「ともに育つまちを目指して」という目標に対する事業でございます。2103番の学校施設新增改築事業は、教室不足が生じないよう、安全で安心して学べる教育環境を整備していこうとするものであります。19年度は、増築工事完成、京葉小1校、小学校新設基本・実施設計1校、これは、ちはら台の仮称第4小学校でございます。2106番の外国人講師活用事業は、ALTを中学校に派遣いたしまし

て、聞く、話すを中心とした実践的コミュニケーション能力の育成を図ろうとするものでございます。19年度は、ALT15名を全中学校に派遣いたしました。また、希望する小学校・幼稚園にも派遣しております。次に、2117番の市原・袖ヶ浦少年少女発明クラブは、姉崎小学校におきまして、毎月、隔週土曜日に、小学校3年生から中学校2年生までを対象として、科学工作教育を実施しております。市ではこれへの活動支援として助成をしております。参加者は、延べ3,257人になっております。2124番の青少年の国際交流事業ですが、青少年の国際交流を実施し、青少年の健全育成を図ろうとするものでございます。事業への後援や助成を行ってまいりました。19年度は、コスモス国際親善少年野球があり、これは臨海球場を中心に8月の夏休みに実施したもので、台湾や韓国のチームと市内や県内のチーム63チーム、1,300人が参加いたしました。また、少年の翼事業として、サッカーとミニバスケットボールのチームの参加者78名が韓国を訪れ、試合を通じて、交流を深めてまいりました。次に、2208番のブックスタート事業ですが、この事業はボランティアの協力を得ながら、1歳6か月検診時に絵本を配布いたしまして、育児の質を高めるきっかけづくりをするものでございます。具体的には、検診を受診した親子に対しまして、ボランティアの方が絵本の読み聞かせを実施しながら、絵本を手渡してまいりました。実績といたしましては、1,834組です。参加ボランティア数は、延べ275人です。基本目標の3つ目の「ともに健やかに暮らせるまちを目指して」に向けた事業でございます。3107番の育児に関する相談体制等の充実についてでございます。この事業は、子育てに不安を抱える保護者が、身近な機関で相談できるよう、各種の相談体制を充実し、育児不安の解消に努めようとするものでございます。子育てほっとダイヤルという電話相談をはじめ、母子健康相談や新生児訪問相談、健診時の面接相談等を実施してまいりました。次に、3202番の児童虐待防止対策の充実についてでございますが、この事業は幅広く関係機関との連携を図りながら実務者会議を設け、虐待の未然防止に向け、迅速かつきめ細かい対応を図っていかうとするものでございます。平成19年度は、19年2月に立ち上げました「要保護児童対策地域協議会」の代表者会議あるいは実務者会議の開催し、関係機関との連携を図りました。ちなみに、代表者会議は1回ですが、実務者会議は、全体が2回、個別ケースに対しましては、11ケースがございましたが、連携会議を実施してまいりました。続きまして、3206番の安全教育推進ですが、この事業は、生活安全、交通安全、災害安全教育を推進し、子ども達の安全を確保していかうとするものでございます。生活安全では、各学校での安全マップの活用、防犯教室の開催、スクールガードの募集と組織化が図られました。交通安全では、全小学校で、交通安全教室が開催され、17,049人が参加しました。災害安全では、全小中学校で、避難訓練を実施し、安全指導を実施してまいりました。次に、3207番の子ども110番事業ですが、この事業は市原市青少年育成市民会議と連携いたしまして、子ども110番の家を指定し、地域の方々、学校関係者、団体、ボランティアの皆様とともに、子どもの安全を見守っていかうとするものです。19年度は、青少年育成市民会議を開催し、地域における子どもの安全対策の呼びかけや広報を通じた周知、学校を通じた周知を図ってまいりました。1月末現在で

子ども110番の家は2, 861件となっております。次に、最後の3219番、環境学習の推進でございます。この事業は、ビオトープや自然観察会など自然を直に体験できる機会を創出し、生命の大切さや他者への思いやりの心を育もうとするものでございます。実績といたしましては、学校ビオトープの活動支援のほか、環境保全推進絵手紙の募集、これには応募が11校からございました。また、この他、巨木巡りやスターウォッチング、自然観察会を実施したところでございます。以上が19年度における実績の主なものでございます。詳細につきましては、お手元の実績等一覧表と題しました資料に全事業を掲載しておりますので、活字が大変小さく恐縮ではございますが、お目を通していただき、この場でいただけるご意見等がありましたら、頂戴いたしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。私からの説明は、以上でございます。ありがとうございました。

○潤間会長

ただ今、事務局から「次世代育成支援行動計画の進捗状況について」の説明がございましたが、ご質問、ご意見等がございますでしょうか。（青木主税委員挙手）はい、どうぞ。

○青木主税委員

青木でございます。小児医療の充実、3120の市民病院の充実のところですが、実際には、充実ではない方向に行っているのですが、その辺りの影響は何かありますか。

○事務局（星野保健福祉部長）

それでは、私から市民病院の充実と言うことについてご説明申し上げます。皆様も既にご承知のとおり、一昨年12月に医院長が急逝しまして、4人いた医師が結局の所、一人亡くなり、あと2名が千葉大に引き上げたということで、内科医が一人だけになってしまったわけです。そのようなことがございまして、病院としての形態をなしていないため、昨年11月1日から国保診療所として再スタートしました。そのような中で、小児医療の充実という部分については、もともと市民病院の中では、内科医が1名、小児科を兼務委していた訳ですが、現実には加茂地区の方々の中では、小児救急という部分については、直接的に影響は無かったと思えます。というのは、二次救急の関係も含めて、私どもの市原市では、小児二次救急の輪番制の体制を整えております。帝京大学ちば総合医療センター、循環器病センター、千葉労災病院の3つの病院が小児救急の輪番制をひいており、万が一、重篤な子どもが出た場合には、この病院に搬送する体制を整えております。また、今回、市民病院につきましては、近くに循環器病センターもございますし、また、馬立には、永野病院という大きな病院もございます。そういったことから、国保診療所にするということについては、それほど影響としては無かったと考えております。全く無いというわけではないのですが、地域の方々にとっては、ベッドを持っている病院が縮小するということが、不安に感じられていることは、私どもは十分に認識しております。そのため、小児二次救急の現在の体制につきましては、今後も、3病院のご尽力をいただきまして、積極的に対応していきたいと考えております。市民病院の関係につきましては、そういうことでございます。よろしでしょうか。

○潤間会長

ありがとうございました。他にございますか。（近江眞理子委員挙手）はい、近江委員どうぞ。

○近江眞理子委員

近江と申します。学童保育のことでお聞きしたいのですが、市内の小学校の内、現在21か所が23か所に増えたということですが、市内の小学校全部は40数か所だったと思いますが、これから徐々に増やして、最終的には全部の小学校で学童保育が出来るようになるのでしょうか。

○潤間会長

はい、ただ今の近江委員の質問に対して、

○事務局（秋元保育課長）

保育課長の秋元です。学童保育を所管しております。理想としては、全ての小学校で実施したいと思っておりますが、現実的には全てというのは難しい面がございまして、毎年、希望を調査しておりますけれども、調査の結果、希望の多いところから実施しております。今度、新しい実施計画という、20年度から3年間の計画ができますが、その中では35か所まで増やそうと考えております。

○近江眞理子委員

ありがとうございます。ただ今、保育園を利用されている方が沢山いらっしゃるのですが、保育園が終わって小学校に行くときに、学童保育がないと非常に困るといふ声をよく聞きますので、各小学校にあればと思いました。ありがとうございます。

○潤間会長

他にございますか。（伊藤均委員委員挙手）はい、伊藤委員どうぞ。

○伊藤均委員

はい、教えていただきたいのですが、「ともに育てるまちをめざして」の視点と「ともに育つまち」の視点の違いをはっきり教えていただきたいのですが。ここに載っているものと、どちらでも良いのではないかと感じられるので。分かれていない気がしますので、よろしく願いいたします。

○事務局（木村子ども福祉課長）

明確にお答えできるかどうか分かりませんが、この計画書の20ページと21ページに基本目標として、ともに育てるまち、ともに育つまち が文書で書かれていますが、この目標の段階では、ともに育てるといふのは括弧で書いてありますが、地域全体で連携しながら、育てるといふわかりやすい表現で、育つといふのは自動詞のような表現ですが、これは、子ども自身もやがて大人になって子育て世代になり、子育て世代がしっかり子どもを育てましょうということと、子どもを育てることによって、その親もまた、育つのだろうと、子育てを通じながら、地域で支援しながら、子どもも育つが、育てる親世代も地域の方も一緒に成長していく環境整備を図りたいという理念です。

○伊藤均委員

はい、その視点からいきますと、200番台で実施している事業は、1000番



台と同じではないでしょうか。

○事務局（木村子ども福祉課長）

はい、1000番台は、一見、子どもが対象のように見えますが、その中でも例えば、当たり前のことですが、せんせいについては教職員、あるいは、2115番ですね、地域力ということで、育て側の課題に迫っているものとか、数は少ないのですが、あるいは、既に終わっていますが、2109番は、子どもと親の相談活動、育てる側に着目したもの、あるいは、2119番の成人教育ですとか、子育て学習、直接的な子育てと間接的に育てる側への効果を狙ったものもあるということです。先ほど、概要でご説明した少年少女発明クラブというのがありますが、これは企業の方が中心になっていらっしゃるのですが、ここで、指導者レベルで見ますと、親世代の交流もされております。その中で大人も子どもを教えながら、自ら学ぶ部分もあるでしょうし、

○伊藤均委員

どちらかという、指導が主体となってしまっています。生涯教育が行き届いた街というのは、市民からクレームがない街という、そのような判定基準でやっておりますが、そうしますと、評価するものを持ちながら、行事を行い、その行事が本当に目的に合っているかどうか、要するに、誰が判定してくれるのでしょうか。どこで統一的な制御をするのでしょうかということお聞きしたいのですが。

○事務局（木村子ども福祉課長）

その事業の評価でしょうか。評価者ですか。評価をするのは誰かと。それぞれの事業はこの本にもありますが、数値的な目標とか、文言でも目標も定まっていますので、計画としては、その目標を達成したか否か、が事業自体の一つの評価基準です。1事業毎に目標を置いておりますので、達成の度合いがひとつの評価にはなると思います。計画ですから、数値的が達成されたかどうかは評価のひとつだと思います。もし、お答えが質問の趣旨に合っていなかったら、申し訳ございませんが。

○事務局（星野保健福祉部長）

次世代育成支援行動計画というのは、行政計画の中では部門計画であると思っております。その部門計画の中で事業があるわけですが、この事業というのはあくまでもアウトプットであると思っております。業績であると思っております。このような部門計画を統括する改訂総合計画というものがございます。総合計画の中でも、子育て支援に関する事業を盛り込んでおります。その中で、アウトプットからアウトカムということで、成果主義という考え方の中で、このような様々な事業を展開することによって、本当に子育てしやすいまちにつながるのでしょうか、その指標というのは、現状ではアンケートしかございませんが、アンケートを求めていくことによりまして、その割合が上がってくるのか、下がってくるのか、ということが、ひとつには評価として、我々はとらえているところでございます。ですから、そのアンケートの結果で、アウトカム、いわゆる成果が、子育て環境が満足できなければ、下がってくるのだらうと。下がってくるとなると、部門計画に跳ね返って来まして、何が問題なのかという部分でのチェックが必要となってくるとおもいます。もし、上がってくれば、それぞれの事業は相乗効果を発揮いたしまして、効果

としては、上がってきている。これは、事業としては、期待できる事業だろうと、そのような評価をしていかなければいけない。だから、子育て支援の行動計画だけでは、なかなか判断できない。もっともっと周辺環境の施策がたくさんありますので、それも合わせた中で、本当に子育てしやすいまちなのかということをも市民の皆さんに判断していただくという考え方で計画は作られていると言えると思います。

○潤間会長

ただ今の星野部長の答えに対していかがですか、伊藤委員。

○伊藤均委員

アンケートは大まかなもので、細かいものが無いものですから、あんまり事業が細かくなりすぎて、やられている人達も分かりながらやられているのかどうか、分からないくらいに細かく分かれているように思いますが、どうでしょうか。

○事務局（木村子ども福祉課長）

ここに載っている事業自体は個別で、おっしゃるとおり載っておりますが、日々事務を遂行する上で、それぞれの部局でなん事業も抱えておりますが、実際の事務を担当する場合は、担当レベルでは個別事務として目標を持って積み上げていかないと、なかなか難しいこともございますので、事務レベルに近いレベルで選択しておりますので、このぐらいのレベルであれば具体性がある良いのではないかと考えております。

○潤間会長

ありがとうございました。伊藤委員いかがですか。

○伊藤均委員

結構です。（志村淳子委員挙手）

○潤間会長

はい、志村委員どうぞ。

○志村淳子委員

私は看護協会というところから来ておりますので、その立場から質問します。仕事を持つ親は、保育所をお願いして預かってもらっていますが、幼稚園の場合、延長保育を私立では行っておりますが、公的な機関で延長保育ということがこの計画の中にはございますが、いつごろから実際に市原市の幼稚園では行っていたのかということをも質問したいと思います。それから、学童の安全面ですが、先日、インターネットの掲示板へ、非常に不穏な、千葉の子どもをどうのこうのという書き込みがございまして、騒然とした事例がございましたが、私の住む地域では、そのような情報がいち早くキャッチされまして、地元の防犯ボランティアの人達が、それに対応したわけですが、市原市全体で子ども達を守ってくれるグループがいたる所に、学校区域に、あるのでしょうか、ちょっと心配しております。私の孫も今度学校に入るものですから、学童の安全面についてお聞かせ願います。それから、伊藤委員もおっしゃっていましたが、常にアウトカム意識を、具体的な対策を講じるときでも、そこに戻りながら事業を遂行していかないと、事業だけが分別した形になりますので、常にやっていることが、市原市の次世代育成支援行動計画のここに結びついているのですよということをも、実際に行動をおこすレベルでも常に意

識していかないと、アウトカムということが非常に大切になってくると思います。

○潤間会長

よろしいですか。事務局、3点あると思います。

○事務局（木村子ども福祉課長）

はい、いろいろありがとうございます。逆からお答えいたしますが、アウトカムを常に意識してということですが、そのとおりでございますので、それに意を配りながら、ここに書いてあるものは本当に個別になっておりますが、内容をご説明する意味で書かせていただきましたが、この計画自体も大きな制定原因や制定の方向がありますので、アウトカムはアドバイスをいただいたように、常に意識していきたいと考えております。それから、幼稚園の延長保育ですが、私立は行っていて市原市は行っていませんが、現在、教育委員会と幼児教育の進行指針ということで、福祉部も入りながら、どのような方向で出そうかと協議しています。幼保一元化とか、認定子ども園とかいろいろなことが進んでおりますので、それに合わせた取り組みをしてきましたが、具体的な協議は次年度も続けていかないといけない状況です。ですから、今後、預かり保育を含めて、あるいは幼稚園、保育園の関係を含めて、次年度早々から綿密な協議を行っていくと思います。

○潤間会長

鹿島次長、どうぞ。

○事務局（鹿島保健福祉部次長）

学童の安全ということについてですが、各小学校には、児童の登下校時の安全を守るためのボランティアグループを組織しております。警察等の関係機関にも協力をいただきながら、安全を守っております。掲示板への書き込みがあった時には、そのグループにも声かけをしまして、各学校で対応していただきましたので、完全とは言えないまでも安全度は高まっていると思います。

○事務局（木村子ども福祉課長）

学童の安全の件で、追加させていただきます。別の面からの安全への取り組みですが、110番タクシーというのが、市とタクシー協会との間で連携しております。タクシーが動く子ども110番の家のようにグルグル回っておりますので、それも子どもの逃げ場にもなりますし、悪い人への犯罪抑止効果が間接的ですがパトロールとなっております。あわせて、先ほどもご説明いたしました。子ども110番の家ということで、地域の人が協力してくれて、私の家に駆け込んでくださいと、地域の見守りと連携をとっていきたいと思っています。

○潤間会長

はい、星野部長、どうぞ。

○事務局（星野保健福祉部長）

補足させていただきます。平成17年頃でしょうか、広島や栃木県で子どもが通学時などに誘拐され殺されるという事件がございました。これを受けまして平成17年12月17日だったかと思いますが、私ども市原市では、かけがえのない子ども達を守る緊急宣言をいたしました。緊急宣言をすると同時に、市役所の公用車やゴミ収集車、トラック協会さん、小湊鐵道さんもそうですが、ステッカーを貼って

いただきまして、安全が市民の共通認識として目で見えて分かるようにすることが必要であろうということで、車にベタベタ貼ってありますが、それをきっかけにして町会におきましても、自主防犯組織が非常に増えまして、子ども達の特に下校時ですが、老人クラブ、地域のお年寄り達や自主防犯組織が一緒になって、子どもの送り迎えをやっていると。自宅まで一緒になって歩いていくと。このようなことが積極的に行われていて、現時点でも続いております。これは、時間が経つと忘れられてしまいがちですが、市長は子どもに対する取り組みを重要視しておりますので、特に安全という面については、行政としてもあらゆる機会を通じて協力をお願いして、また、行政も取り組んでいくということで考えておりますので、是非とも、地域の方に会ったら、少しでも時間があれば、子ども達に目配り気配りをさせていただければと思っております。以上でございます。（荒井猛委員挙手）

○潤間会長

はい、荒井委員どうぞ。

○荒井猛委員

ただ今、部長から町会ということが出ました。街の安全・安心、これはご存じのとおり、子ども達が各学校から各家庭・地域、スクールガードという形で現在も色々とお骨折りをいただいております。私も町会といたしますと、皆様方もご承知のとおり、平成14年であったと思いますが、市原市が10,435回でしたか、事件事故が発生していて、まさに市原市が県内有数の犯罪都市という汚名を受けました。それから今部長が触れられたとおり、単位町会、防犯指導員の方々、さらには老人クラブ、子ども会など様々な団体が、現在287団体が防犯パトロール隊を結成しまして、この中には勿論スクールガードも入っています。通学、下校時にパトロールを実施しております。常に実施しております、3日ほど前は五井駅周辺、派出所や署員の方に来ていただき、チラシを配ったり、周辺のパトロール、現在は5000件台に事件事故が減少したと言われますが、昨年暮れからまた増えております。特に2月、アピタの近郊で、忍び込みが出たり、子どものこともあります。増えてきているので、町会でもパトロールを強化しないといけないと思っております。子どもが関連すると、本当に悲惨なものですから、各地区の評議委員の会議でも、学校と家庭と地域が、子ども達の安心安全をみんなでやろうとしております。つい先日も会議をやりました。しかしながら、完全とは言えないのが若干残念ではあります。以上でございます。

○潤間会長

荒井委員、どうもありがとうございました。連合町会長のお立場からご発言いただきました。他にございますか。志村委員、よろしいですか。

○志村淳子委員

お答え、ありがとうございました。理念と具体的な策は分かりました。それを実践していく上で、いろいろな課題や問題が見えてくるだろうと思っております。例えば、今の防犯の話でございますが、実際に私の地域でもやっておりますが、ユニフォームを着用してやっておりますが、たまたまそれは全員に配布される予算が無かったのかも知れませんが、地域の理解のない保護者の方だろうと思っておりますが、ウチの子

どもは知らない人から声をかけられたら、返事をするなどかという躰をしているので、やたらと子どもに声をかけないでくださいというようなお叱りを受けた話を聞いております。何か実際に事を成す場合に、いろいろな問題点、課題を拾い上げていって、具体的にきめ細かく対応していくのが大事ではないかなと思いましたが、数少ない事例かとは思いますが、そのような策を市民全体に広めていく、理解していただく、協力していただく、広報的なことを徹底していく必要があると思います。以上でございます。

○潤間会長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。（青木主税委員挙手）  
はい、どうぞ。

○青木主税委員

この懇話会になじむかどうかわかりませんが、今、全国で給食費の未納の問題があります。ここにはその対策は全然載っていないのですが、現状はどうなっているのでしょうか。非常に大きな問題だと思うのですが、市原市としてどのように対応しているのでしょうか。

○潤間会長

青木委員の質問に対して、鹿島次長、どうぞ。

○事務局（鹿島保健福祉部次長）

細かいデータはわかりませんが、先日ラジオで給食費の未納の問題をやっておりまして、市原市が千葉県内で未納率が第3位であるということがございました。対応としましては、税金などと一緒にございまして、文書で督促したり、休日に未納家庭に訪問し催促したりしております。今後もそのような対応をしてみますが、抜本的な対応策については、担当部署に確認の必要があり、この場ではお答えできませんので、現状ということでお話を申し上げました。

○潤間会長

はい、星野部長。

○事務局（星野保健福祉部長）

給食費の未納が年々増加しているのが傾向と言えれば傾向なのですが、特に生活保護を受けている方々は、当然ながら、お子さんがいれば教育扶助を行政から支給しております。その部分には当然給食費も入っております。しかしながら、それが学校に届かない、どこで消えてしまっているのか、というような実態もございます。生活保護費については本来、本人に直接支給というのが原則ですが、その部分については本人の同意を得て、学校へ子どもから直接納めるということもやらざるを得ないというような状況になってきています。保健福祉部としては、子どももお年寄りも全て対応している部署でございますけれども、先ほど志村委員からもお話がありました、各施策を展開するのに課題となっているのは、コミュニティが崩壊している、連帯意識が全く欠如している、結果として町会の加入率も年々減少しているという実態でございます。私も朝通勤をするときに、子どもに声をかけても、全く挨拶が返ってこない、下手に声をかけると逃げられてしまうということもございました。そのような中で、本当にこのままで良いのかと、いくら行政側で事業費を

注ぎ込んでも少子化に歯止めがかかるのだろうか。地域が良くなってくるのだろうか、非常に不安な気持ちがあることは確かでございます。いまの地域の方々、特に大人の方がたについては、地域の環境は自分たちで守る、地域の子も達は自分たちで守るという意識、当然ながら相互扶助の考え方の中で、先ずは少しでも良いから努力していただく、そのような意識を持っていただければということを経営としてもこれからやらざるを得ないのかと思っております。行政がそのようなことをやるのがどうなのかということも疑問もありますが、そのような時代になっているということは確かだと思っております。

○荒井猛委員

ただ今部長から再度お話がありましたが、現在、地域社会では、かつての支え合い、助け合いといった機能が低下しております。そして人間関係が希薄になったと。これが事件事故の大きな要因になっていると思っております。私ども町会関係者にとって未加入ということが大変大きな問題となっております。市原市全体の加入率が67パーセントくらいです。都市化が進めば進むほど低下します。大きな建物、マンションなどですが、加入される方も増えてはおりますが、若干、加入されない方が多くいます。この国分寺台地区は特に多いです。この辺は50パーセントくらいではないでしょうか。特に若い世代が、大変恐縮ですが、生活が多様化したのかもしれませんが、地域に重きを置かなくなっている傾向があります。大変残念ですけれども。そしてもうひとつは、地域社会の古来からの伝統文化がだんだん消えているんです。昔はこういうもので人間がつながりを持っていました。近年、こういうものがだんだん消えていくので、どうしたら良いのか、私ども町会関係者もこれを模索しております。また、加入していただくために努力をしているのが実情でございます。

○潤間会長

どうもありがとうございます。他にございますか。(安藤和夫委員挙手) はい、どうぞ。

○安藤和夫委員

子育て支援員活動についてお聞きします。4、5か月児の全戸家庭訪問実施、訪問件数は、2208件とここに出ていて分かりましたが、その後のフォローはどのようなになっているのでしょうか。

○潤間会長

はい、木村センター長。

○事務局(木村子ども福祉課長)

子育て支援員の方は、全戸訪問で一度お話をし、子育てガイドブックを配ったり、子育て情報を提供しております。その時に要保護状態であった場合には市へお知らせしてくれるようになっておりますが、これまでにそのような実績が3件ありました。これは、虐待ではないけれどその恐れがあるのではないかとというケースです。このように要保護の発見という役割も果たしております。

○潤間会長

安藤委員、よろしいですか。

○安藤和夫委員

はい、結構です。

○潤間会長

他にございますか。（川上昌子委員挙手）はい、どうぞ。

○川上昌子委員

このような事を言って良いのか分かりませんが、前期が終わってこれから後期に向けて見直しを行っていくと書かれておりますが、どの程度の見直しを考えているのか分かりませんが、今、若い人達の問題が急速に注目されてきていると思います。二十歳くらいの子も達のこと計画にあまり入っていないと思います。例えば、中学を卒業して就職をするということを考えましても、以前は、全く問題が無かった。しかし、最近では中卒で就職をするということが、大変問題を抱えていると思います。その辺の問題は、見直しという中で、入れていくのかどうかをお伺いします。

○潤間会長

はい、木村センター長、お答え願います。

○事務局（木村子ども福祉課長）

はい、まず計画自体は、スケジュールとしまして、後期計画は22年度からですが、実際の取り組みとしては、来年度から状況調査を始める予定です。その結果、ニーズを把握しまして、分析をして、翌21年度に具体的な22年度からの計画策定作業に入っていくこととなります。そして、その中で、中学卒業くらいの年代の子も達への取り組みですが、計画は基本的には、18歳未満の児童が対象ですので、青少年に関する分野もテーマとして入っていくべきであると思います。ただ今御提言を頂きましたので、次期計画で検討してまいります。勤労青少年につきましては、特に、勤労青少年法とかいう法律があります。成長期に就職し、悩みを抱えているから地域全体で見守りましょうという古い法律ですが、今でも市の中では、経済部において、労働行政の一環として、勤労青少年に関する啓発活動をやっておりますが、あまり周知されていないかも知れませんので、そことも連携しながら取り組んでいければと思っております。

○潤間会長

川上委員、今の説明でよろしいですか。はい、ありがとうございます。本日は大変熱心なご発言をたくさん頂きました。他にございますか。

ご質問、ご意見等が他に無いようですので、「市原市次世代育成行動計画の進捗状況について」、は議事を終了してよろしいでしょうか。【異議なしとの声】ご意見などが無いようですので、議題(2)「その他」に移ります。これまでの議題以外で何かございましたら、お願いいたします。

特に無いようですので、以上をもちまして本日の日程は全て終了いたしました。

なお、議事録の確定につきましては、「会長があらかじめ指名した委員2名による承認」とし、原則として50音順に交代でお願いすることとさせていただいておりますので、今回につきましては、川上昌子委員、小出佐和子委員、後日、事務局から議事録が送付されますので、ご査収のほどお願いいたします。ご協力ありがと

うございました。

○事務局（田中保健福祉政策課長）

長時間に渡り、ご審議いただきまして、誠にありがとうございました。これをも  
ちまして、平成19年度第1回市原市保健福祉懇話会を終了いたします。